

II

半径が 2 の円 O に内接する三角形 ABC が

$$3\vec{OA} + 4\vec{OB} + 2\vec{OC} = \vec{0} \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

を満たしているとする。

直線 AO と線分 BC の交点を D とおくと、線分 AD と線分 BD の長さを求めよう。

(1) k を実数として、 $\vec{OD} = k\vec{OA}$ とおくと

$$\vec{OD} = -\frac{\boxed{A}}{\boxed{B}}k\vec{OB} - \frac{\boxed{C}}{\boxed{D}}k\vec{OC}$$

と表すことができる。さらに、3 点 B, C, D が一直線上にあることから、 $k = \frac{\boxed{EF}}{\boxed{G}}$

を得る。したがって、 $OD = \boxed{H}$ が求まり

$$AD = \boxed{I}$$

を得る。

(2) (1) より $BD = \frac{\boxed{J}}{\boxed{K}}BC$ となるので、線分 BD の長さを求めるためには、線分 BC の長さを求めればよい。

まず

$$BC^2 = \boxed{L} - \boxed{M}\vec{OB} \cdot \vec{OC}$$

である。ただし、 $\vec{OB} \cdot \vec{OC}$ は \vec{OB} と \vec{OC} の内積を表すものとする。また、 $\textcircled{1}$ より、 $|4\vec{OB} + 2\vec{OC}|^2 = \boxed{NO}$ であるから

$$\vec{OB} \cdot \vec{OC} = \frac{\boxed{PQR}}{\boxed{S}}$$

を得る。したがって、 $BC = \frac{\boxed{T}\sqrt{\boxed{U}}}{\boxed{V}}$ が求まり

$$BD = \frac{\sqrt{\boxed{W}}}{\boxed{X}}$$

を得る。